



図書日和

2016年12月号

鹿児島中央高等学校図書館
平成28年12月16日発行

先生・お薦めの一冊

『ローマ人への20の質問』

塩野 七生 著 (文藝春秋・文春新書)

芸術科 音楽 福森 利昭 先生

高校生の時、世界史の時間にローマ帝国について学習した。しかし、遠き昔にいくら思いを馳せても感動した記憶は蘇らない。

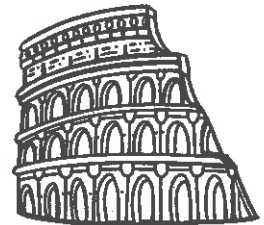
気まぐれに購入した本書のカヴァーに目をやると～(パクス・ローマ)を確立したローマ帝国。崇高と卑劣、叡智と愚かさ・・・人間の営みのすべてを網羅したローマは、我々と同じ生身の人間が生きた国でもあったのだ～とある。「2000年前の人々より、今の我々は進化していないのか?」と衝撃を受けるとともに、2000年前の人々を見下す自分の傲慢さに恥じ入った。

「20の質問」のうち最も興味をそそられたのは、問1の「ローマは軍事的にはギリシアを征服したが、文化的には征服されたとは真実か?」という質問である。通例、植民地では言葉、宗教、貨幣、芸術等の民族のアイデンティティーはおろか、民族の種まで根絶やしにする政策がとられるという。それに引き替え、なんと寛大なことか。本当なのか?という疑念が塩野七生さんの本を続けざまに読みあさる切っ掛けとなった。

ローマ人はギリシアを属州化した紀元前2世紀にあっても、元老院階級の師弟教育を被征服民に委ねたという。当時の国際語であったギリシア語、哲学と倫理学、修辞学、歴史、調和を養うに有効な数学と音楽までも学んだという。

ユリウス・カエサルは、「ローマ人は、他民族から学ぶことを拒絶する傲慢は持ち合わせていない。良しと思えば、たとえそれが敵のものであろうと、拒絶するよりは模倣するほうを選んできた。」と言っている。著者は問1に対して、「彼らの自信と余裕の証拠に思えてならない。」と答えている。

「ローマは一日にしてならず」の格言を生んだ古代ローマは西欧各国の手本とされたという。きっと、ローマの1千年が危機と克服の連続であり、それを上手く乗り越えたからであろう。この書をはじめとする塩野七生さんの著書群には、混迷の極みともいえる現代を上手く乗り越えるヒントが隠されているような気がする。



冬休みの利用について

・特別貸出について

12月16日(金)～12月22日(木)

ひとり5冊まで貸出可能です。返却日は1月10日(火)までです。

*12月29日(木)～1月3日(火)この期間は書架室を閉館します。

・冬季休業中の学習室の利用について

12月26日(月)～12月28日(水) 8時30分開館 16時45分閉館 (3年生模試)

12月29日(木)～1月3日(火) 8時30分開館 16時30分閉館

1月4日(水)～1月6日(金) 8時30分開館 16時45分閉館 (冬季課外)

1月7日(土)～1月9日(月) 8時30分開館 16時30分閉館

*閉館時間が異なりますので注意してください。

・昼食のための視聴覚室開放は、12:00～13:00です。ゴミを残さないようにしてください。

・冬季休業中は掃除ができません。消しゴムは各自でゴミ箱に捨ててください。

・次の日も気持ちよく学習できるように、各自で後片付けをしっかりとってください。



ご近所出身の偉人たち 西郷 隆盛（1827～1877）

下加治屋町に生まれた西郷は、藩校造士館に通い、加治屋郷中の少年たちのリーダーとして頭角を現します。18歳で郡方書助となり、各地の農村を回り農業の実態や農民の苦しみを知り、藩に農業政策についての意見書を提出します。それが藩主島津斉彬の目にとまり、参勤に従って江戸へ登り、庭方役として仕えることになりました。斉彬は西郷に日本のみならず世界情勢も教えました。斉彬の使いで水戸の藤田東湖、越前の橋本左内らにも会い、多くのことを学んだ西郷は、次第に尊王攘夷の考えに変わっていきました。1858年（安政5）斉彬の急死後、勤王派を反対勢力とみなす幕府から西郷も追われる身となり、薩摩藩は奄美大島に西郷を住まわせ、幕府には西郷は死んだと偽ります。その後、鹿児島に帰るものの久光の誤解から沖永良部への流罪を言い渡されたのでした。

大久保らの働きで島から戻った西郷は、明治維新までの4年間、新しい日本を作るためにめざましい働きをします。土佐の坂本龍馬の斡旋により1866年（慶応2）、長州の木戸孝允と薩長連合を結びます。1867年（慶応3）12月の王政復古を成功させ、翌年鳥羽伏見の戦いへと幕府を追い込んだ戊辰戦争では主導者として、そして勝海舟と折衝し江戸城の無血開城を実現したのでした。

1871年（明治4）、岩倉具視や大久保らの求めに応じ政府に入った西郷は、首席参議として学制、徴兵令、地租改正などの政策を推進します。しかし、1873年（明治6）の政変で征韓論が阻止されたため辞職帰郷。西郷に従い帰郷した桐野利秋、篠原国幹、村田新八らとともに私学校を設立。1877年（明治10）、私学校党が政府密偵の挑発にのって蜂起します。同年9月24日、西郷隆盛城山において自刃。西郷、51歳の時でした。

参考文献『学校周辺の史跡めぐり』『加治屋町の偉人たち』鹿児島県立鹿児島中央高等学校 発行
『鹿児島の先人たち』鹿児島県教育出版 発行

11月の貸出統計（11月の貸出冊数207冊）

学年組	1年								2年								3年							
	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8
貸出数	4	2	2	1	10	0	3	5	8	7	13	5	20	6	37	10	1	4	3	16	29	10	1	10
合計	27冊								106冊								74冊							

*本が読みたい！という気持ちを心のどこかに持ち続けてください。

冬の読書

- 『私のスポットライト』林 真理子 著（ポプラ社）**悩みながらも成長していく中学生の物語。
- 『夜行』森見 登美彦 著（小学館）**お待たせしました。森見さんの最新小説です！
- 『分かれ道ノストラダムス』深緑 野分 著（双葉社）**高校生の二人が、いびつな世界に飲み込まれていく……。
- 『コーヒーが冷めないうちに』川口 俊和 著（サンマーク出版）**過去に戻れる喫茶店があるらしい……。
- 『世界のへんな肉』白石 あづさ 著（新潮社）**イグアナのスパイス炒め、一緒に食べませんか？
- 『池上彰の世界の見方 アメリカ』池上 彰 著（小学館）**これからアメリカはどう進んでいくのだろうか。
- 『夏井いつきの超カンタン！俳句塾』夏井 いつき 著（世界文化社）**めざせ、俳句甲子園！
- 『スマホ断食』藤原 智美 著（潮出版）**ネットの上手な使い方を考えてみよう！
- 『絵でわかるロボットのしくみ』瀬戸 文美 著（講談社）**ロボット工学を学びたくなってきた！
- 『ニーチェが京都にやってきて17歳の私に哲学のことを教えてくれた。』原田 まりる 著（ダイヤモンド社）

**哲学は身近な学問なんだ！と思える小説です。



編集後記

あっという間に12月が過ぎ去ろうとしています。慌ただしい時期こそ平常心を忘れないようにしたいものです。体調管理も忘れずに！そして、お忙しい時期にもかかわらず原稿を書いてくださった福森先生、ありがとうございました。ちょっと早いですが、良いお年をお迎えください！

